

「2日間カゼで休んで解雇に」 「失業中で国保料が払えない」

110件の相談～南相馬市の農家からも

雇用・くらしSOSネットワークは25日、札幌市大通地下歩行空間で街頭相談会をひらき、午前10時30分の開始とともに、午後6時までに110件の切実な相談が寄せられました。

「震災の影響で3月に解雇された。やっと再就職できたと思ったところ、風邪で2日間続けて休んだら、もうこなくていいと言われ解雇された。賃金も払われていない。(60代男性)」との相談には、その場から直接会社へ申し入れに行きました。

「失業し、現在はパソコン教室を受講し訓練給付金が12月末にでる。10万円では家賃も払えないので、住宅手当も受給している。

それでも灯油代など払うとマイナスになる。(50代男性)」との相談は、後日生活保護を申請することになりました。

「夫が経営していた広告代理店が不況で経営難に。サラ金から500万円借金がある。夫とは離婚し、生活保護を考えている。娘が私立高校に通っているが、生活保護では公立高校並しか手当てされない。(40代女性)」などの相談が相次ぎ、深刻な雇用状況と、セーフティネット脆弱さがあらためて浮き彫りになりました。

「福島県の南相馬市で脱サラして農家をしていたが、原発事故後に札幌へ避難してきた。原発事故は全てを奪い去った。何とかして戻りたい。(60代男性)」という震災・原発事故被害に関する相談も寄せられました。

医療相談では、脳血管障害、足腰のシビレなどの他、「失業して国保になったが、保険料が払えず保険証を失った。いまは短期保険証で保険料を納付するよう催促されるが、仕事が全然みつからず払うことができない。(50代男性)」などの相談が寄せられました。

貧困と格差の解消、安心して生きられる社会保障制度の確立は「待ったなし」の課題です。

SOSネットは、労働者の「モノ扱い」を許さず、すべての人に生存権が保障されるよう、引き続き反貧困の運動をつよめます。

